

ATコマンド

ATコマンドとは

ATコマンドとは、Atermの便利な機能を使うときに、Atermに設定を命令するためのコマンドです。米国Hayes社が自社用モデムのために開発、使用した非同期端末用の自動発着信方式の一種で、コマンドの大部分が“AT”で始まることからこう呼ばれています。

AtermはこのATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

ATコマンドを使うためには

ATコマンドを使うためには、ターミナルモードで動作する通信ソフトウェアが必要です。Windows98/Windows95では標準で添付されているハイパーターミナルを使用します。

次の画面が表示されたら、ATコマンドを入力して「リターン」キーを押してください。ATコマンドが実行されます。



at を入力した例

Macintoshでは、ターミナルモードで動作する通信ソフトウェアは標準添付されていません。必要な方はATコマンドが使える通信ソフトウェアを雑誌やオンラインで入手するか、購入してください。

ATコマンドの使い方

ATコマンドは「コマンド」と「Sレジスタ」並びに「リザルトコード」から成り立っています。次ページから、「コマンド」と「Sレジスタ」ならびに「リザルトコード」について説明します。「コマンド」は、パソコンからターミナルアダプタに対し動作を指示するときに使用します。ターミナルアダプタからパソコンに対するコマンド実行結果の報告や着信の報告等を「リザルトコード」といいます。また、コマンドの種類によっては、「Sレジスタ」の内容を参照するものがあります。「Sレジスタ」の内容もまた、ATコマンドにより書き換えることができます。

ご注意!

Atermはパソコンの「ER信号オン」で通信可能になります。
ER信号をオンできないパソコンの場合は、らくらくユーティリティやAT&Dコマンドで「ER信号を常時ONとみなす」に設定してください。

コマンド入力形式

ATコマンドは次の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF
---	---	------	----	----

- ・ 文字は半角を使用してください
- ・ ATは、atでもかまいません。AtやaTは使用できません。
- ・ コマンドは、最大184文字まで入力できます。184文字を超えた場合はERRORをパソコンに返します。
- ・ 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- ・ コマンドの中にはコマンドの後ろにパラメータを必要とするものがあります。このパラメータが省略された場合は、“0”とみなします。
- ・ CR(改行キーやreturnキー)は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- ・ LFは省略できます。
- ・ LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- ・ コードはアスキーを使用します。
- ・ Atermは、ATコマンドからパソコンのデータポート速度・データビット長・パリティを自動的に判別してそれに合わせます。

Sレジスタ

Sレジスタは、自動発着信の動作を規定する各種パラメータ(RING回数、時間、文字)を格納するレジスタです。Sレジスタの内容はATSnコマンドで変更できますが、通常は初期値で使用します。

リザルトコード

リザルトコードはVコマンドの設定に対応して、次のいずれかの形式で表示されます。

(1) 英語表示のリザルトコード

CR	LF	リザルトコード	CR	LF
----	----	---------	----	----

(英語)

- ・ CR(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- ・ LFは改行文字です。改行文字はS4レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- ・ コードはアスキーを使用します。

(2) 数字表示によるリザルトコード

リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。

リザルトコード	CR
---------	----

(数字)

- ・ CRは復帰文字で、コマンドの区切りを示します。復帰文字はS3レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。復帰文字を変更すると通信できない場合があります。
- ・ コードはアスキーを使用します。

コマンド	機能概要	初期値	コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-	/S	コマンド発行ポートのサブアドレス セパレータ設定	/
D	ダイヤル発信	-	/SJ	データポートのサブアドレス セパレータ設定	/
E	エコー指定	1	/SK	背面USBポートのサブアドレス セパレータの設定	/
H	切断	-	/SL	前面USBポートのサブアドレス セパレータの設定	/
I	装置コード表示	-	&C	コマンド発行ポートの CD信号制御の設定	1
N	回線速度の設定	0	&CJ	データポートのCD信号制御の設定	1
O	データ通信中のコマンドモード からデータ通信モードへ戻す	-	&CK	背面USBポートのCD信号制御の設定	1
Q	リザルトコード有無設定	0	&CL	前面USBポートのCD信号制御の設定	1
V	リザルトコードフォーマット設定	1	&D	コマンド発行ポートの ER信号制御の設定	0
W	リザルトコードRING表示設定	0	&DJ	データポートのER信号制御の設定	0
X	リザルトコードセット設定	3	&DK	背面USBポートのER信号制御の設定	0
Z	コマンド発行ポートの パラメータの初期化	-	&DL	前面USBポートのER信号制御の設定	0
ZJ	データポートの初期化	-	&H	短縮番号表示	-
ZK	背面USBポートの初期化	-			
ZL	前面USBポートの初期化	-			

コマンド	機能概要	初期値	コマンド	機能概要	初期値
&K	フロー制御方式の設定	3	#R	着信拒否	-
&S	コマンド発行ポートのDR信号制御の設定	0	#Z	コマンド発行ポート用通知番号登録	-
&SJ	データポートのDR信号制御の設定	0	#ZA	アナログAポート用通知番号登録	-
&SK	背面USBポートのDR信号制御の設定	0	#ZB	アナログBポート用通知番号登録	-
&SL	前面USBポートのDR信号制御の設定	0	#ZC	アナログCポート用通知番号登録	-
&Z	短縮番号登録	-	#ZJ	データポートの通知番号登録	-
#C	コマンド発行ポートの通信料金、 切断理由表示	-	#ZK	背面USBポートの通知番号登録	-
#CJ	データポートの通信料金、切断理由表示	-	#ZL	前面USBポートの通知番号登録	-
#CK	背面USBポートの通信料金、 切断理由表示	-	*H	着信番号・内線指定番号割当表示	-
#CL	前面USBポートの通信料金、 切断理由表示	-	*PCA	アナログAポートの発信用i・ナンバー 情報設定	-
#H	コマンド発行ポートの通知番号表示	-	*PCB	アナログBポートの発信用i・ナンバー 情報設定	-
#HA	アナログAポート用通知番号表示	-	*PCC	アナログCポートの発信用i・ナンバー 情報設定	-
#HB	アナログBポート用通知番号表示	-	*PCN	コマンド発行ポートの発信用 i・ナンバー情報設定	-
#HC	アナログCポート用通知番号表示	-	*PCNJ	データポートの発信用i・ナンバー 情報設定	-
#HJ	データポートの通知番号表示	-	*PCNK	背面USBポートの発信用i・ナンバー 情報設定	-
#HK	背面USBポートの通知番号表示	-			
#HL	前面USBポートの通知番号表示	-			
#M	PIAFSの設定と表示	1			

注: 初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

コマンド	機能概要	初期値	コマンド	機能概要	初期値
* PCNL	前面USBポートの発信用i・ナンバー 情報設定	-	* ZA	アナログAポート着信番号・内線指定 番号割当	-
* PN	i・ナンバー情報の電話番号・ 内線指定番号	-	* ZB	アナログBポート着信番号・内線指定 番号割当	-
* PRA	アナログAポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	* ZC	アナログCポート着信番号・内線指定 番号割当	-
* PRB	アナログBポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	* ZD	コマンド発行ポートの着信番号割当	-
* PRC	アナログCポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	* ZDJ	データポート着信番号割当	-
* PRN	コマンド発行ポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	* ZDK	背面USBポート着信番号割当	-
* PRNJ	データポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	* ZDL	前面USBポート着信番号割当	-
* PRNK	背面USBポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	¥C	累積通信料金表示	-
* PRNL	前面USBポートの着信用i・ナンバー 情報設定	-	¥D	UIメール表示の設定と表示	注
* PX1	i・ナンバーの使用設定	0	¥L	発着信情報表示	-
* P?	i・ナンバーの設定表示	-	¥M	電子メール通知表示の設定と表示	注
* Z	着信番号・内線指定番号登録	-	¥Q	フロー制御方式の設定	3
			¥S	コマンド発行ポートの各種設定表示	-
			¥SJ	データポート設定表示	-
			¥SK	背面USBポート設定表示	-
			¥SL	前面USBポート設定表示	-
			\$ A	アナログAポートの設定と表示	注
			\$ B	アナログBポートの設定と表示	注

注: 初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

先頭ページへ

項の先頭へ

前ページへ

次ページへ

コマンド	機能概要	初期値	コマンド	機能概要	初期値
\$C	アナログCポートの設定と表示	注	\$S	パラメータの保存	-
\$D	アナログポート共通設定と表示	注	\$X	着信転送の設定	2,0
\$F	シリアルポート・USBポートの共通設定項目データ		\$Y	着信転送先アドレス登録	-
\$H	着信転送用アドレス表示	-	\$YM	電話番号着信転送(遊遊メール)の転送先メールアドレス登録	-
\$L	LCDの設定と表示	注	\$Z	着信転送元アドレス登録	-
\$M	コマンド発行ポート128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示	注	%C	圧縮プロトコルの指定	2
\$MJ	データポート128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示	注	S	Sレジスタポイントの設定	0
\$MK	背面USBポート128kbpsマルチリンクPPPの設定と表示	注	?	レジスタポイントの示すレジスタ内容表示	-
\$ML	前面USBポート128kbpsマルチリンクPPPの設定と表示	注	=	Sレジスタポイントの示すレジスタ内容変更	-
\$N	コマンド発行ポートの設定と表示	注	+++	エスケープコマンド	-
\$NJ	データポートの制御に関する設定と表示	注	!H	マイプライベート着信用アドレスの登録情報表示	-
\$NK	背面USBポートの制御に関する設定と表示	注	!SH	疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)の登録情報表示	-
\$NL	前面USBポートの制御に関する設定と表示	注	!SZ	疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)のアドレス登録	-
\$O	MUX機能の設定や表示	注	!UC	迷惑電話防止用アドレスの登録電話番号の削除	-
			!UH	迷惑電話防止用アドレスの情報表示	-

注:初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

コマンド	機能概要	初期値
!US	迷惑電話防止用アドレスの登録	-
!VH	INSボイスワープ設定用電話番号表示	-
!VZ	INSボイスワープ設定用電話番号登録	-
!WH	疑似なりわけの相手の電話番号表示	-
!WZ	疑似なりわけの相手の電話番号登録	-
!X	マイプライベート着信の設定	0
!Z	マイプライベート着信の相手電話番号と着信ポートの設定	-
%H	ホームネットワークモードの設定	-
%Z	ホームネットワーク用アドレスの登録と表示	注

注: 初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

先頭ページへ

頂の先頭へ

前ページへ

次ページへ

A

機能: 「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して相手と通信中にします。
書式: ATA
パラメータ: なし
入力例: ATA

D

- 機能: 発信して相手を呼出します。
- 書式: ATD<パラメータ1></パラメータ2><パラメータ3>
- パラメータ: <パラメータ1> 相手アドレス(相手電話番号)
- S = 0 ~ 9 : 短縮・識別番号へ発信します。
 - ¥ : 再発信します。
 - 00 : 背面のUSBポートへ内線発信します。
 - 01 : 前面のUSBポートへ内線発信します。
 - 02 : データポートへ内線発信します。
- <パラメータ2> 相手サブアドレス
- <パラメータ3> [ユーザ・ユーザデータ
- ; : コマンドモードへ入ります。発信するときはOコマンドを入力します。
 - CB : スティルスコールバックの発信をします。
 - PD : PIAFS64kで発信します。
 - PF : PIAFS32kで発信します。
 - PA : ITMUX同期64Kで発信します。
 - PB : ITMUXMP通信で発信します。
- 入力例: ATD0123-45-6789 [ABCD
ATDS = 0
ATD0123-45-6789CB
- 補足: <パラメータ1>:
- ・ 相手電話番号は最大32桁で0~9の数字が使用できます。その他の文字は使用しても無視します。

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

- ・高機能S点ユニットが実装され、ホームネットワークモードに設定されているときは、アドレス1桁 (0 ~ 9) の指定は、内線発信となります。
- ・00 ~ 02 指定時は < パラメータ 2 >、< パラメータ 3 > の指定は無効です。
< パラメータ 2 > :
 - ・相手サブアドレスは最大19桁で0 ~ 9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
/(サブアドレスセパレータ)は、/Sコマンドで変更できます。< パラメータ 3 > :
 - ・ユーザ・ユーザデータは最大128桁で次の文字が使用できます。
0 ~ 9, *, #, 英字
ユーザ・ユーザデータのの前には[を入れてください。
 - ・「;」はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。
 - ・CB、PD、PF、PA、PBはどれか1つのみ指定してください。cb、pd、pf、pa、pbでもかまいません。
 - ・CB指定時は合わせて発側・着側共にスティルスコールバック着信許可(\$ N10 = 1)にしてください。また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。
 - ・CB指定時の相手サブアドレスは最大15桁に制限されます。
 - ・CB、PF、PD、PA、PB指定発信のリダイヤルはできません。
 - ・CB、PD、PF、PA、PBは必ず最後につけてください。
 - ・PDPF使用時はPIAFS設定されていなくてもPIAFS発信します。
通信終了後は元の設定に戻ります。

E

機能: エコーバックするか否かを指定します。
書式: ATE<パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> 0 : エコーバックしません。
1 : エコーバックします。
入力例: ATE0
補足: 初期値は1です。

H

機能: 通信を切断します。
書式: ATH
パラメータ: なし
入力例: ATH
補足: 最初にエスケープコマンド(+++)を入力し、コマンドモードにしてからHコマンドを入力します。

機能: 装置コード、装置メーカー、データポート種別などを表示します。

書式: ATI<パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0 : 装置コード(ATコマンドのバージョン=960)を表示します。
 3 : ファームウェアのバージョンを表示します。
 4 : 装置メーカー(AtermIT NEC Corporation)を表示します。

入力例: ATI4

N

機能: 回線速度を指定します。

書式: ATN<パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1>

0	: パソコン側通信ポートの速度と同じ
1	: 1,200bps
2	: 2,400bps
3	: 4,800bps
4	: 9,600bps
5	: 14,400bps
6	: 19,200bps
7	: 28,800bps
8	: 38,400bps
9	: 57,600bps

入力例: ATN4

補足:

- ・初期値は0です。
- ・フロー制御方式も合わせて設定してください。通常RS-CSフロー制御を選択します。
- ・Dコマンドの前に入力してください。
- ・通信相手が異速度通信できないターミナルアダプタのときに相手のデータポート速度を指定します。
- ・非同期通信時に使用できません。
- ・<パラメータ1>を0とし、パソコン側通信ポートの速度を115,200bpsや230,400bpsとしたときは、回線速度は57,600bpsとなります。

O

機能: エスケープコマンド(+++)を入力した後のオンラインコマンドモードから通信状態に戻します。
書式: ATO
パラメータ: なし
入力例: ATO

Q

機能: リザルトコードを返すか返さないかを指定します。
書式: ATQ<パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> 0 : リザルトコードを返します。
1 : リザルトコードを返しません。
入力例: ATQ0
補足: 初期値は0です。

V

機能: リザルトコードを数値で返すか英数文字で返すかを指定します。
書式: ATV<パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> 0 : リザルトコードを数値で返します。
1 : リザルトコードを英数文字で返します。
入力例: ATV0
補足: 初期値は1です。

W

機能: リザルトコードRINGの表示のしかたを設定します。

書式: ATW<パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0 : RINGのみを返します。
 2 : RINGの後に続けて相手の電話番号、サブアドレス、ユーザデータを表示します。

入力例: ATW2

補足:

- ・ 初期値は0です。
- ・ 電話番号とサブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。
- ・ 電話番号またはサブアドレスとユーザ・ユーザデータの区切りは[] です。

X

機能: リザルトコードセットを指定します。
 書式: ATX<パラメータ1>
 パラメータ: <パラメータ1> 0: ベーシックセット
 1: 拡張セット1
 2: 拡張セット2
 3: 拡張セット3
 4: 拡張セット4

入力例: ATX0
 補足: 初期値は3です。

リザルトコードセットの一覧を示します。

数字	英語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
0	OK					
1	CONNECT		-	-	-	-
2	RING					
3	NO CARRIER					
4	ERROR					
5	CONNECT1200	-				
7	BUSY	-	-	-		

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

数字	英語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
10	CONNECT2400	-				
11	CONNECT4800	-				
12	CONNECT9600	-				
13	CONNECT14400	-				
14	CONNECT19200	-				
18	CONNECT57600	-				
19	CONNECT64000	-				
21	CONNECT32000	-				
26	CONNECT28800	-				
28	CONNECT38400	-				
67	COMPRESSION:V.42bis	-				
69	COMPRESSION:NONE	-				
82	PROTOCOL:PIAFS	-				

Z

- 機能: コマンド発行ポートの設定を初期化します。
- 書式: ATZ<パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1>
- 0: コマンドを発行しているポートの設定を、\$Sコマンドで保存した内容に戻します。
 - 1: コマンドを発行しているポートの設定を、購入時の状態に戻します。
 - 10: すべてのデータポートの設定を、\$Sコマンドで設定した内容に戻します。
 - 11: すべてのデータポートの設定を、購入時の状態に戻します。
 - 98: ハードウェアリセットをかけます。すべての設定を購入時の状態に戻します。
 - 99: ソフトウェアリセットをかけます。すべての設定を、\$Sコマンドで保存した内容に戻します。

入力例: ATZ11

- 補足:
- ・パラメータ1・11のいずれかを指定した場合、以下のデータは初期化されません。
短縮ダイヤル・発信者通知電話番号・自己サブアドレス・着信電話番号・内線指定番号・累積通話料金・着信転送先アドレス・着信転送元アドレス・受話音量
 - ・アナログの設定項目はパラメータ0・10・99のいずれかが指定されると、すべてバックアップされている内容に戻り、パラメータ1・11・98のいずれかが指定されると、すべて初期化されます。
 - ・各データポートで共通に使用しているデータ(\$F2、\$F3、¥D1、¥M1)は、各パラメータ指定内容で初期化されます。
 - ・パラメータ98・99はいつでも実行可能です。
 - ・パラメータ0・1は、MUX通信中のポートがある場合、MUX関連の設定項目(\$O)については、設定

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

を変更しません。その他の項目に関しては処理を実行します。

ZJ

機能: データポートの設定を初期化します。

書式: ATZJ<パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: データポートを、\$Sコマンドで保存した内容に戻します。
1: データポートを、購入時の状態に戻します。

入力例: ATZJ0

ZK

機能: 背面USBポートの設定を初期化します。

書式: ATZK<パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: 背面USBポートを、\$Sコマンドで保存した内容に戻します。
1: 背面USBポートを、購入時の状態に戻します。

入力例: ATZK1

補足: 背面USBポートの存在しない機種に対して、ZKコマンドを入力すると、ERRORとなります。

ZL

機能: 前面USBポートの設定を初期化します。

書式: ATZL<パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: 前面USBポートを、\$Sコマンドで保存した内容に戻します。
 1: 前面USBポートを、購入時の状態に戻します。

入力例: ATZL1

補足: 前面USBポートの存在しない機種に対して、ZLコマンドを入力すると、ERRORとなります。

/S

機能: コマンド発行ポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。

書式: AT/S<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1><=パラメータ2>

0: 現在のセパレータの表示

1: セパレータの設定

1 = /(初期値)

1 = #

1 = *

入力例: AT/S1=#

- 補足:
- ・本コマンドでサブアドレスセパレータを変更した場合は、&Z、#Z、#ZJ、#ZK、#ZL、\$Z、Dコマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。
 - ・アナログポートで使用するセパレータ(*)は固定です。
 - ・液晶ディスプレイに表示されるサブアドレスセパレータは、設定した文字が表示されます。

/SJ

- 機能: データポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。
- 書式: AT/SJ<パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: /Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT/SJ1=*
- 補足: /Sコマンドの補足も参照してください。

/SK

- 機能: 背面のUSBポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。
- 書式: AT/SK<パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: /Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT/SK1=/
- 補足:
- ・ 背面USBポートの存在しない機種に対して、/SKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ /Sコマンドの補足も参照してください。

/SL

- 機能: 前面のUSBポートのサブアドレスセパレータの表示・設定を行います。
- 書式: AT/SL<パラメータ1>=<パラメータ2>
- パラメータ: /Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT/SL0
- 補足:
 - ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、/SLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ /Sコマンドの補足も参照してください。

&C

- 機能: コマンド発行ポートのCD信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&C<パラメータ1>
- パラメータ:

<パラメータ1>	0:	ER-ON時には常にCD-ON
	1:	通信中は常にCD-ON
- 入力例: AT&C0
- 補足: 初期値は1です。

&CJ

- 機能: データポートのCD信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&CJ <パラメータ1 >
- パラメータ: &Cコマンドと同じです。
- 入力例: AT&CJ0
- 補足: &Cコマンドの補足も参照してください。

&CK

- 機能: 背面USBポートのCD信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&CK <パラメータ1 >
- パラメータ: &Cコマンドと同じです。
- 入力例: AT&CK1
- 補足:
 - ・ 背面USBポートの存在しない機種に対して、&CKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ &Cコマンドの補足も参照してください。

&CL

- 機能: 前面USBポートのCD信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&CL <パラメータ1 >
- パラメータ: &Cコマンドと同じです。
- 入力例: AT&CL0
- 補足:
 - ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、&CLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ &Cコマンドの補足も参照してください。

&D

- 機能: コマンド発行ポートのER信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&D <パラメータ1 >
- パラメータ: <パラメータ1 > 0: パソコンのER信号をみる。
 1: ER信号を常時ONとみなす。
 2: 通信中のみパソコンのERをみる。
- 入力例: AT&D1
- 補足: 初期値は0です。

&DJ

機能: データポートのER信号制御の設定を行います。

書式: AT&DJ <パラメータ1 >

パラメータ: &Dコマンドと同じです。

入力例: AT&DJ0

補足: &Dコマンドの補足も参照してください。

&DK

機能: 背面USBポートのER信号制御の設定を行います。

書式: AT&DK <パラメータ1 >

パラメータ: &Dコマンドと同じです。

入力例: AT&DK0

補足:

- ・背面USBポートの存在しない機種に対して、&DKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
- ・&Dコマンドの補足も参照してください。

&DL

- 機能: 前面USBポートのER信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&DL <パラメータ1 >
- パラメータ: &Dコマンドと同じです。
- 入力例: AT&DL1
- 補足:
 - ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、&DLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ &Dコマンドの補足も参照してください。

&H

- 機能: 短縮番号を表示します。
- 書式: AT&H <パラメータ1 >
- パラメータ: <パラメータ1 > 0 ~ 9 : 指定した短縮番号の内容を表示します。
なし : すべての短縮番号の内容を表示します。
- 入力例: AT&H

&K

- 機能: フロー制御方式を設定します。
- 書式: AT&K<パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 0または5: フロー制御しない
3または6: RS-CSフロー制御
4: XON/XOFFフロー制御
- 入力例: AT&K4
- 補足: 初期値は3です。¥Qコマンドと同じ機能です。

&S

- 機能: コマンド発行ポートのDR信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&S<パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: ER-ON時には常にDR-ON
1: 通信中は常にDR-ON
- 入力例: AT&S1
- 補足: 初期値は0です。

&SJ

- 機能: データポートのDR信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&SJ<パラメータ1>
- パラメータ: &Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT&SJ1
- 補足: &Sコマンドの補足も参照してください。

&SK

- 機能: 背面USBポートのDR信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&SK<パラメータ1>
- パラメータ: &Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT&SK0
- 補足:
 - 背面USBポートの存在しない機種に対して、&SKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - &Sコマンドの補足も参照してください。

&SL

- 機能: 前面USBポートのDR信号制御の設定を行います。
- 書式: AT&SL<パラメータ1>
- パラメータ: &Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT&SL1
- 補足:
- ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、&SLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ &Sコマンドの補足も参照してください。

&Z

- 機能: 短縮番号を登録します。
- 書式: AT&Z<パラメータ0><=パラメータ1></パラメータ2>
- パラメータ:
- <パラメータ0> 短縮番号。0～9の数字。
 - <パラメータ1> 相手アドレス
 - <パラメータ2> 相手サブアドレス
- 入力例: AT&Z0=012345678/910
- 補足:
- ・ 相手アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 相手サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。また、/以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
/は/Sコマンドで変更できます。
 - ・ 末尾にCBをつけたスタイルスコールバックを行う電話番号は登録できません。

#C

- 機能: コマンド発行ポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
- 書式: AT#C
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#C
- 補足:
- CAUSE = #の後に切断理由コードを表示します。
 - SOURCE = の後に生成源を表示します。
 - CHARGE: ¥の後に通信料金を表示します。

#CJ

- 機能: データポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
- 書式: AT#CJ
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#CJ
- 補足: #Cコマンドの補足も参照してください。

#CK

- 機能: 背面USBポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
- 書式: AT#CK
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#CK
- 補足:
 - ・ 背面USBポートの存在しない機種に対して、#CKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ #Cコマンドの補足も参照してください。

#CL

- 機能: 前面USBポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
- 書式: AT#CL
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#CL
- 補足:
 - ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、#CLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ #Cコマンドの補足も参照してください。

#H

- 機能: コマンド発行ポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
- 書式: AT#H
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#H
- 補足:
- ・通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
 - ・登録されていない場合、BUFFER EMPTYと表示します。
 - ・本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

#HA

- 機能: アナログAポートの発信者通知番号(通知番号、自己サブアドレス)を表示します。
- 書式: AT#HA
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#HA
- 補足:
- ・通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
 - ・登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。
 - ・本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

HB

- 機能: アナログBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
- 書式: AT#HB
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#HB
- 補足:
- ・通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
 - ・登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。
 - ・本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

HC

- 機能: アナログCポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
- 書式: AT#HC
- パラメータ: なし
- 入力例: AT#HC
- 補足:
- ・通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
 - ・登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。
 - ・本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

HJ

- 機能: データポートの発信者通知番号と自己サブアドレスを表示します。
- 書式: AT#HJ
- パラメータ: なし

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

入力例: AT#HJ
補足: #Hコマンドの補足も参照してください。

#HK

機能: 背面USBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式: AT#HK
パラメータ: なし
入力例: AT#HK
補足:

- 背面USBポートの存在しない機種に対して、#HKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
- #Hコマンドの補足も参照してください。

#HL

機能: 前面USBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を表示します。
書式: AT#HL
パラメータ: なし
入力例: AT#HL
補足:

- 前面USBポートの存在しない機種に対して、#HLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
- #Hコマンドの補足も参照してください。

M

機能: PIAFSの設定と表示を行います。

書式: AT#M <=パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: PIAFS通信する
 1: 非同期通信する
 ?: 設定内容の表示

入力例: AT#M=0

補足:

- ・ #Mでの設定は\$N1コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。
- ・ 初期値は1です。

R

機能: 着信中に入力することにより、着信を拒否します。

書式: AT#R

パラメータ: なし

入力例: AT#R

Z

機能: コマンド発行ポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。

書式: AT#Z<パラメータ1></パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> 通知番号
<パラメータ2> 自己サブアドレス

入力例: AT#Z012345678/910

- 補足:
- ・ 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ /は/Sコマンドで変更できます。
 - ・ 本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

ZA

機能: アナログAポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。

書式: AT#ZA<パラメータ1></パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> 通知番号
<パラメータ2> 自己サブアドレス

入力例: AT#ZA012345678/2222

- 補足:
- ・ 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

ZB

機能: アナログBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。

書式: AT#ZB<パラメータ1></パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> 通知番号
<パラメータ2> 自己サブアドレス

入力例: AT#ZB012345678/3333

- 補足:
- ・ 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

ZC

機能: アナログCポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。

書式: AT#ZC<パラメータ1></パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> 通知番号
<パラメータ2> 自己サブアドレス

入力例: AT#ZC012345678/4444

- 補足:
- ・ 通知番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 自己サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

#ZJ

- 機能: データポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。
- 書式: AT#ZJ<パラメータ1></パラメータ2>
- パラメータ: #Zコマンドと同じです。
- 入力例: AT#ZJ12345678
- 補足: #Zコマンドの補足も参照してください。

#ZK

- 機能: 背面USBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。
- 書式: AT#ZK<パラメータ1></パラメータ2>
- パラメータ: #Zコマンドと同じです。
- 入力例: AT#ZK567890/123
- 補足:
- ・背面USBポートの存在しない機種に対して、#ZKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・#Zコマンドの補足も参照してください。

#ZL

- 機能: 前面USBポートの発信者通知番号(通知番号と自己サブアドレス)を登録します。
- 書式: AT#ZL<パラメータ1></パラメータ2>
- パラメータ: #Zコマンドと同じです。
- 入力例: AT#ZL111567890/99852
- 補足:
 - ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、#ZLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ #Zコマンドの補足も参照してください。

*H

- 機能: 着信番号と内線指定番号の割り当てを表示します。
- 書式: AT*H
- パラメータ: なし
- 入力例: AT*H
- 補足: 本コマンドは、「i・ナンバーを使用しない」場合に有効です。

* PCA

機能: アナログAポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT*PCA = <パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
入力例: AT*PCA=1
補足: 初期値は1です。

* PCB

機能: アナログBポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT*PCB = <パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
入力例: AT*PCB=2
補足: 初期値は2です。

* PCC

機能: アナログCポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT*PCC = <パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
入力例: AT*PCC=1
補足: 初期値は2です。

* PCN

機能: コマンド発行ポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT*PCN = <パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
入力例: AT*PCN=1
補足: 初期値は1です。

* PCNJ

機能: データポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT*PCNJ = <パラメータ1>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
入力例: AT*PCNJ=1
補足: 初期値は1です。

* PCNK

- 機能: 背面USBポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
- 書式: AT * PCNK = <パラメータ1 >
- パラメータ: <パラメータ1 > i・ナンバー情報(1または2)
- 入力例: AT * PCNK=1
- 補足:
 - ・初期値は1です。
 - ・背面USBポートの存在しない機種に対して、* PCNKコマンドを入力すると、ERRORとなります。

* PCNL

- 機能: 前面USBポートに、発信用i・ナンバー情報を設定します。
- 書式: AT * PCNL = <パラメータ1 >
- パラメータ: <パラメータ1 > i・ナンバー情報(1または2)
- 入力例: AT * PCNL=1
- 補足:
 - ・初期値は1です。
 - ・前面USBポートの存在しない機種に対して、* PCNLコマンドを入力すると、ERRORとなります。

* PN

機能: i・ナンバー情報の電話番号・内線指定番号を設定します。
書式: AT*PN<パラメータ1><=パラメータ2><,パラメータ3>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> 電話番号
<パラメータ3> 内線指定番号
入力例: AT*PN1=0312345678

* PRA

機能: アナログAポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。
書式: AT*PRA=<パラメータ1><,パラメータ2>
パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)
入力例: AT*PRA=1,2
補足: 初期値は1です。

* PRB

機能: アナログBポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。

書式: AT*PRB=<パラメータ1><,パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)

入力例: AT*PRB=1,2

補足: 初期値は2です。

* PRC

機能: アナログCポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。

書式: AT*PRC=<パラメータ1><,パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)

入力例: AT*PRC=1,2

補足: 初期値は2です。

* PRN

機能: コマンド発行ポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。

書式: AT*PRN = <パラメータ1> <,パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)

入力例: AT*PRN=1,2

補足: 初期値は1です。

* PRNJ

機能: データポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。

書式: AT*PRNJ = <パラメータ1> <,パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)

入力例: AT*PRNJ=1,2

補足: 初期値は1です。

* PRNK

- 機能: 背面USBポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。
- 書式: AT*PRNK = <パラメータ1> <,パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)
- 入力例: AT*PRNK=1,2
- 補足:
 - ・初期値は1です。
 - ・背面USBポートの存在しない機種に対して、*PRNKコマンドを入力すると、ERRORとなります。

* PRNL

- 機能: 前面USBポートに、着信用i・ナンバー情報を設定します。
- 書式: AT*PRNL = <パラメータ1> <,パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> i・ナンバー情報(1または2)
<パラメータ2> i・ナンバー情報(1または2)
- 入力例: AT*PRNL=1,2
- 補足:
 - ・初期値は1です。
 - ・前面USBポートの存在しない機種に対して、*PRNLコマンドを入力すると、ERRORとなります。

*PX1

機能: i・ナンバーを使用するかどうかを設定します。

書式: AT*PX1 = <パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: 使用しない
 1: 使用する

入力例: AT*PX1=1

補足: 初期値は0です。

*P?

機能: i・ナンバーに関する設定内容を表示します。

書式: AT*P?

入力例: AT*P?

* Z

- 機能: 着信番号と内線指定番号を最大8個まで登録します。
- 書式: AT*Z<パラメータ1><=パラメータ2><,パラメータ3>
- パラメータ: <パラメータ1> 0~7:テーブル番号
<パラメータ2> 着信番号(電話番号)
<パラメータ3> 内線指定番号
- 入力例: AT*Z1=1234567890,1111
- 補足:
- ・着信番号は最大32桁で0~9の数字が利用できます。
 - ・内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。4桁で0~9の数字が利用できます。
 - ・本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

* ZA

- 機能: アナログAポートに、*Zコマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZA=<パラメータ1>~<,パラメータ8>
- パラメータ: <パラメータ1>~<,パラメータ8>:0~7
(*Zコマンドで登録したテーブル番号)
- 入力例: AT*ZA=0,2,3,7
- 補足:
- ・1つのポートに最大8つまで割り当てることができます。
 - ・本コマンドで登録された番号で着信判定を行います。
 - ・内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。
 - ・本コマンドは、「i-ナンバーを使用しない」場合に有効です。

* ZB

- 機能: アナログBポートに、*Zコマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZB = <パラメータ1> ~ <, パラメータ8>
- パラメータ: *ZAコマンドと同じです。
- 入力例: AT*ZB = 0, 2, 3, 7
- 補足: *ZAコマンドと同じです。

* ZC

- 機能: アナログCポートに*Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZC = <パラメータ1> ~ <, パラメータ8>
- パラメータ: *ZAコマンドと同じです。
- 入力例: AT*ZC = 0, 2, 3, 7
- 補足:
 - ・ *ZAコマンドと同じです。
 - ・ 内線指定番号は無視されます。

* ZD

- 機能: コマンド発行ポートに、*Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZD = <パラメータ1> ~ <, パラメータ8>
- パラメータ: *ZAコマンドと同じです。
- 入力例: AT*ZD = 0, 2, 3, 7
- 補足:
 - ・ *ZAコマンドと同じです。
 - ・ 内線指定番号は無視されます。

* ZDJ

- 機能: データポートに、*Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZDJ=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8>
- パラメータ: *ZAコマンドと同じです。
- 入力例: AT*ZDJ=0,1,7,2,6
- 補足: *ZDコマンドの補足も参照してください。

* ZDK

- 機能: 背面USBポートに、*Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZDK=<パラメータ1> ~ <,パラメータ8>
- パラメータ: *ZAコマンドと同じです。
- 入力例: AT*ZDK=1,3,4,6
- 補足:
 - 背面USBポートの存在しない機種に対して、*ZDKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - *ZDコマンドの補足も参照してください。

* ZDL

- 機能: 前面USBポートに、*Zコマンドで登録した着信番号を割り当てます。
- 書式: AT*ZDL=<パラメータ1>~<,パラメータ8>
- パラメータ: *ZAコマンドと同じです。
- 入力例: AT*ZDL=0,1,2,3,4,5,6,7
- 補足:
 - ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、*ZDLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ *ZDコマンドの補足も参照してください。

¥C

- 機能: 各データポート、アナログAポート、アナログBポート、アナログCポートの累積通信料金の表示と初期化を行います。
- 書式: AT¥C<パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 累積通信料金を表示させます。
 1: 累積通信料金を初期化(0円)します。
- 入力例: AT¥C0

¥D

- 機能: UUIメールのランプ表示設定と設定内容を表示します。
- 書式: AT¥D<パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 1の設定内容の表示
 1: ランプ点灯選択
 1 = 0: UUIメール着信でランプ点灯しない
 1 = 1: UUIメール着信でランプ点灯する
- 入力例: AT¥D1 = 0
- 補足: 初期値は1=1です。

¥L

- 機能: 各データポート、アナログAポート、アナログBポート、アナログCポートの最新発信・着信番号や、着信しなかった理由を表示します。
- 書式: AT¥L<パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 最新の発信番号を表示します。
 1: 最新の着信番号、切断理由、診断情報を表示します。
- 入力例: AT¥L1
- 補足: SEND CAUSE = 切断理由、DIAGNOSIS = 診断情報です。

¥M

機能: 電子メール通知のランプ表示の設定と、設定内容の表示を行います。

書式: AT¥M <パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: 設定内容の表示
 1: ランプ点灯選択
 1 = 0: 電子メール着信でランプ点灯しない
 1 = 1: 電子メール着信でランプ点灯する

入力例: AT¥M1 = 0

補足: 初期値は1=1です。

¥Q

機能: フロー制御方式の設定を行います。

書式: AT¥Q <パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> 0: フロー制御なし
 1: XON/XOFFフロー制御
 2: CSフロー制御
 3: RS-CSフロー制御

入力例: AT¥Q0

補足: 初期値は3です。

¥S

- 機能: コマンド発行ポートのデータポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
- 書式: AT¥S <パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1>
- 0: データポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー指定、非同期/同期PPPモード、回線状態、信号制御、信号線状態を表示します。
 - 1: Sレジスタの内容をSレジスタ名とともに表示します。
 - 2: リザルトコード有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコードRING表示、リザルトコードセットの状態を表示します。
 - 3: Sレジスタの内容を表示します。

入力例: AT¥S0

¥SJ

- 機能: データポートのデータポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
- 書式: AT¥SJ <パラメータ1>
- パラメータ: ¥Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT¥SJ1

¥SK

- 機能: 背面USBポートのデータポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
- 書式: AT¥SK <パラメータ1 >
- パラメータ: ¥Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT¥SK0
- 補足: 背面USBポートの存在しない機種に対して、¥SKコマンドを入力すると、ERRORとなります。

¥SL

- 機能: 前面USBポートについて、データポート設定値、Sレジスタ値、ATコマンド状態を表示します。
- 書式: AT¥SL <パラメータ1 >
- パラメータ: ¥Sコマンドと同じです。
- 入力例: AT¥SL1
- 補足: 前面USBポートの存在しない機種に対して、¥SLコマンドを入力すると、ERRORとなります。

\$ A

機能: アナログAポートの設定と表示を行います。

書式: AT \$ A <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>

- 0: 1～16の設定内容の表示
- 1: アナログポート選択
 - 1 = 0: 電話で使用する(初期値)
 - 1 = 1: ファクスやモデムで使用する
 - 1 = 2: 使用しない
- 2: キャッチホン選択
 - 2 = 0: 使用しない(初期値)
 - 2 = 1: INSキャッチホンを使用する
 - 2 = 2: 疑似キャッチホンを使用する
- 3: 識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)設定
 - 3 = 0: 識別着信しない(初期値)
 - 3 = 1: INSなりわけ識別着信
 - 3 = 2: (疑似)識別着信
 - 3 = 3: INSなりわけ選択キャッチホン
 - 3 = 4: 疑似選択キャッチホン
- 4: HLC設定
 - 4 = 0: HLCを設定しない(初期値)

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

- 4 = 1: HLCを設定し着信判定する
- 4 = 2: HLCを設定するが着信判定しない
- 5: グローバル着信選択
 - 5 = 0: 着信する(初期値)
 - 5 = 1: 着信しない
- 6: サブアドレスなし着信選択
 - 6 = 0: 着信する(初期値)
 - 6 = 1: 着信しない
- 7: ダイヤル桁間タイマ設定
 - 7 = 0: 5秒(初期値)
 - 7 = 1: 9秒
 - 7 = 2: 11秒
 - 7 = 3: 13秒
- 8: フッキング検出タイマ設定
 - 8 = 0: 0.03秒 ~ 1秒
 - 8 = 1: 0.3秒 ~ 1秒(初期値)
 - 8 = 2: 0.5秒 ~ 1.5秒
- 9: 発信者番号通知設定
 - 9 = 0: 発信者番号通知しない
 - 9 = 1: 発信者番号通知する
 - 9 = 2: INSネット64申込内容に従う(初期値)
- 10: 受話音量の設定

- 10 = 0:小音
- 10 = 1:中音(初期値)
- 10 = 2:大音
- 11: 情報通知サービス設定
 - 11 = 0:情報通知サービスしない(初期値)
 - 11 = 1:ナンバー・ディスプレイを使用する
 - 11 = 2:モデム・ダイヤルインを使用する
 - 11 = 3:アナログ・ダイヤルインを使用する
 - 11 = 4:ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する
- 12: 情報通知サービス(サブアドレス)設定
 - 12 = 0:サブアドレスはつけない(初期値)
 - 12 = 1:サブアドレスもつける
- 13: リバースパルス送出設定
 - 13 = 0:送出しない(初期値)
 - 13 = 1:送出する
- 14: 通話中の受話音量変更
 - 14 = 0: * # 入力 で 受話音量 を 変更 しない (初期値)
 - 14 = 1: * # 入力 で 受話音量 を 変更 する
- 15: 識別リング設定
 - 15 = 0:使用しない(初期値)
 - 15 = 1:INSなりわけ
 - 15 = 2:疑似なりわけ

16: CTIモード設定

16 = 0: 使用しない(初期値)

16 = 1: 使用する

18: キャッチホン・ディスプレイ

18 = 0: 使用しない(初期値)

18 = 1: 使用する

入力例: AT \$ A3 = 1

- 補足:
- ・ HLCを設定した場合、電話を選択していればHLCは「電話」にファクスやモデムを選択していれば「G2/G3 FAX」に自動的に設定します。
 - ・ 12「情報通知サービス(サブアドレス)」は11「情報通知サービス」を「1」「2」「4」に設定したときに利用できます。
 - ・ (11 = 0)のときは12の設定は動作に関係しません。

\$ B

- 機能: アナログBポートの設定と表示を行います。
- 書式: AT \$ B <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: \$ Aと同じです。
- 入力例: AT \$ B4 = 1

\$ C

- 機能: アナログCポートの設定と表示を行います。
- 書式: AT \$ C <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: \$ Aと同じですが、11「情報通知サービス」と12「情報通知サービス(サブアドレス)」は使用できません。AポートとBポートでご使用ください。
- 入力例: AT \$ C4 = 1

\$ D

機能: 3つのアナログポートに共通する設定と表示を行います。

書式: AT \$ D <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>

- 0: 2～9の設定内容の表示
- 2: 停電時のリング制御
 - 2 = 0: 着信時リングでなくブザーが鳴る
 - 2 = 1: 着信時リングが鳴る(初期値)
 - 2 = 3: 着信を受け付けない
- 3: 優先着信ポートの指定
 - 3 = 0: 指定しない(初期値)
 - 3 = 1: Aポート優先
 - 3 = 2: Bポート優先
 - 3 = 3: Cポート優先
- 4: 内線通話・転送機能使用可否
 - 4 = 0: 使用しない
 - 4 = 1: 使用する(初期値)
- 5: 三者通話使用可否
 - 5 = 0: 使用しない(初期値)
 - 5 = 1: 三者通話を使用する
 - 5 = 2: 疑似三者通話を使用する

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

- 6: 通信中転送使用可否
 - 6 = 0: 使用しない(初期値)
 - 6 = 1: 使用する
- 7: お出かけモード設定
 - 7 = 1: おやすみモード(初期値)
 - 7 = 2: 電話着信転送モード
 - 7 = 3: ボイスワープ転送モード
 - 7 = 4: フラッシュモード
- 8: ボイスワープ転送モード設定
 - 8 = 1: 無条件転送(初期値)
 - 8 = 2: 無応答時転送
 - 8 = 3: 話中時転送
 - 8 = 4: 無応答or話中時転送
- 9: ダイヤル識別終了
 - 9 = 0: # 発信しない
 - 9 = 1: # 発信する(初期値)
 - 9 = 2: # # 発信する

入力例: AT \$ D 3 = 2

\$F

機能: データポート・USBポート共通の設定と表示を行います。

書式: AT\$F<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1><=パラメータ2>

- 0: 1～3の設定内容の表示
- 1: 優先着信ポートの設定
 - 1 = 0: 優先ポートを指定しない(初期値)
 - 1 = 1: シリアルポートを優先ポートに指定する
 - 1 = 2: 背面USBポートを優先ポートに指定する
 - 1 = 3: 前面USBポートを優先ポートに指定する
- 2: 応答平均化機能
 - 2 = 0: 応答平均化しない(初期値)
 - 2 = 1: 応答平均化する
- 3: 応答平均化時のマルチポイント接続端末数
 - 3 = 1: 1台(初期値)
 - 3 = 2: 2台
 - ⋮
 - 3 = 8: 8台

入力例: AT\$F1=2

補足:

- ・存在しないポートを指定した場合はERRORとなります。
- ・3(マルチポイント接続端末数)は、2(応答平均化機能)を「1」に設定したとき(2=1)には必ず設定してください。3には同一回線に接続されているAtermの数を設定してください。

NEXT 

- ・ 2=0のとき、3の設定値は無効になります。

\$ H

- 機能: アナログポートの着信転送元と着信転送先のアドレス、メールアドレスと着信転送、識別着信転送の設定状態を表示します。
- 書式: AT\$H
- パラメータ: なし
- 入力例: AT\$H
- 補足:
- ・ 着信番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
 - ・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。

\$L

機能: LCDの設定と表示を行います。

書式: AT \$L <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>

0: 1~2の設定内容の表示

1: バックライトの設定

1 = 0: 常に消灯

1 = 1: 常に点灯

1 = 2: AUTO(初期値)

1 = 3: AUTO + データ通信中は常に点灯

1 = 4: AUTO + Bチャンネル使用中は常に点灯

2: アナログ発信時の発信ダイヤル表示

2 = 0: ダイヤル番号を表示しない

2 = 1: ダイヤル番号を表示する(初期値)

入力例: AT \$L1 = 1

補足: データ発信時は常にダイヤル番号を表示します。

\$ M

機能: コマンド発行ポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。

書式: AT \$ M <パラメータ1> < =パラメータ2 >

パラメータ: <パラメータ1> < =パラメータ2 >

- 0: 1～8の設定内容の表示
- 1: マルチリンクPPP通信選択
 - 1 = 0: 128kbps マルチリンクPPP通信しない(初期値)
 - 1 = 1: 128kbps マルチリンクPPP通信する
- 2: リソースBOD選択
 - 2 = 0: リソースBODを行わない(初期値)
 - 2 = 1: リソースBODを行う
- 3: スループットBOD選択
 - 3 = 0: スループットBODを行わない(初期値)
 - 3 = 1: スループットBODを行う
 - 3 = 2: フレックスBODで使用する
- 4: リンク追加算出時間(10秒単位)
 - 4 = 0、10～60(秒) (初期値30秒)
- 5: リンク削除算出時間(10秒単位)
 - 5 = 0、10～60(秒) (初期値10秒)
- 6: リンク追加しきい値設定(10%単位)
 - 6 = 0、60～90(%) (初期値70%)

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

7: リンク削除しきい値設定(10%単位)

7 = 0、10 ~ 40(%)(初期値20%)

8: 2本目接続時の認証

8 = 0: 認証しない

8 = 1: 認証する(初期値)

入力例: AT \$ M2 = 1

補足:

- ・ \$ M1は、\$ N11コマンドと同義のコマンドです。どちらかを設定すれば有効になります。
- ・ スループットBODの設定を「フレックスBOD」に設定できるのはUSBポートのみです。データポートではERRORとなります。

\$ MJ

機能: データポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。

書式: AT \$ MJ <パラメータ1> <=パラメータ2>

パラメータ: \$ Mコマンドと同じですが、3=2「フレックスBODで使用する」は使用できません。

入力例: AT \$ MJ3=1

補足: \$ Mコマンドの補足も参照してください。

\$ MK

- 機能: 背面のUSBポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。
- 書式: AT \$ MK <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: \$ Mコマンドと同じです。
- 入力例: AT \$ MK4=30
- 補足:
 - ・背面USBポートの存在しない機種に対して、\$ MKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・\$ Mコマンドの補足も参照してください。

\$ ML

- 機能: 前面のUSBポートの128kbpsマルチリンクPPP通信の設定と表示を行います。
- 書式: AT \$ ML <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: \$ Mコマンドと同じです。
- 入力例: AT \$ ML5=10
- 補足:
 - ・前面USBポートの存在しない機種に対して、\$ MLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・\$ Mコマンドの補足も参照してください。

\$N

機能: コマンド発行ポートの制御に関する設定と表示を行います。

書式: AT\$N<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1><=パラメータ2>

- 0: 1~14の設定内容の表示
- 1: 非同期/同期PPP変換選択
 - 1 = 0:非同期/同期PPP変換しない(初期値)
 - 1 = 1:非同期/同期PPP変換する
 - 1 = 2:PIAFS通信する
- 2: 識別着信
 - 2 = 0:識別着信しない(初期値)
 - 2 = 1:識別着信する
- 3: HLC設定
 - 3 = n ,N:HLCを設定しない(初期値)
 - 3 = 0~127
- 4: 着信速度チェック
 - 4 = 0:チェックしない(初期値)
 - 4 = 1:チェックする
- 5: グローバル着信選択
 - 5 = 0:着信する(初期値)
 - 5 = 1:着信しない

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

- 6: サブアドレスなし着信選択
 - 6 = 0: 着信する(初期値)
 - 6 = 1: 着信しない
- 9: 無通信監視タイマ
 - 9 = 0: 監視しない
 - 9 = 1: 1分
 - { }
 - 9 = 10: 10分(初期値)
- 10: スティルスコールバック使用
 - 10 = 0: コールバックしない(初期値)
 - 10 = 1: コールバックする
- 11: マルチリンク通信選択
 - 11 = 0: 128kbpsマルチリンクPPP通信しない(初期値)
 - 11 = 1: 128kbpsマルチリンクPPP通信する
- 12: 発信者番号通知設定
 - 12 = 0: 発信者番号を通知しない
 - 12 = 1: 発信者番号を通知する
 - 12 = 2: INSネット64申込内容に従う(初期値)
- 13: PPP ACCM付加選択
 - 13 = 0: 64KPPP、MP時にACCMを付加しない
 - 13 = 1: 64KPPP、MP時にACCMを付加する(初期値)
- 14: 強制切断タイマ

14 = 0:強制切断しない

14 = 1:1時間で切断する

⋮

14 = 10:10時間で切断する(初期値)

15: PIAFS速度設定

15 = 0:32kbps(初期値)

15 = 1:64kbps

(15 = 2:DDI 64kbps)

入力例: AT \$ N9 = 2

補足:

- ・ 4(着信速度チェック)で「チェックしない(4 = 0)」が異速度通信を行う動作になります。
- ・ \$ N1 = 0、\$ N1 = 2の設定は#Mコマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。
- ・ \$ N1=2のときの通信速度(32K/64K)は\$ N15コマンドで設定します。

\$ NJ

機能: データポートの制御に関する設定と表示を行います。

書式: AT\$NJ<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ: \$Nコマンドと同じです。

入力例: AT\$NJ3=1

補足: \$Nコマンドの補足も参照してください。

\$ NK

機能: 背面のUSBポートの制御に関する設定と表示を行います。

書式: AT\$NK<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ: \$Nコマンドと同じです。

入力例: AT\$NK4=1

補足:

- ・背面USBポートの存在しない機種に対して、\$NKコマンドを入力すると、ERRORとなります。
- ・\$Nコマンドの補足も参照してください。

\$ NL

- 機能: 前面のUSBポートの制御に関する設定と表示を行います。
- 書式: AT \$ NL <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: \$ Nコマンドと同じです。
- 入力例: AT \$ NL5=1
- 補足:
- ・ 前面USBポートの存在しない機種に対して、\$ NLコマンドを入力すると、ERRORとなります。
 - ・ \$ Nコマンドの補足も参照してください。

\$O

機能: MUX機能の動作に関する設定や表示を行います。

書式: AT\$O<パラメータ1><=パラメータ2>

パラメータ: <パラメータ1><=パラメータ2>

- 0: 設定内容の表示
- 2: リソースBODモード設定
2=0:行わない(初期値)
2=1:行う
- 3: スループットBODモード設定
3=0:行わない(初期値)
3=1:行う
3=2:フレックスBODで使用する
- 4: リンク追加算出時間設定
4=0、10~60(秒) 30秒(初期値)
- 5: リンク削除算出時間設定
5=0、10~60(秒) 10秒(初期値)
- 6: リンク追加しきい値設定
6=0、60~90(%) 70%(初期値)
- 7: リンク削除しきい値設定
7=0、10~40(%) 20%(初期値)
- 8: 2本目接続時の認証モード設定

NEXT 

先頭ページへ

コマンド一覧へ

前ページへ

次ページへ

- 8=0:認証しない
- 8=1:認証する(初期値)
- 9: PPP ACCM付加モード設定
 - 9=0:ACCMを付加しない
 - 9=1:ACCMを付加する(初期値)
- 10: MUX接続での2本目以降の接続認証モード
 - 10=0:認証を行わない
 - 10=1:認証を行う(初期値)
- 21: 無通信監視タイマ設定
 - 21=0:監視しない
 - 21=1~10(分) 10分(初期値)
- 22: 強制切断タイマ設定
 - 22=0:強制切断タイマを使用しない
 - 22=1~10(時間) 10時間(初期値)

入力例: AT\$Q0

補足: あるデータポートがMUX通信中であるときは、OKを返し、設定変更を行いません。ただし、パラメータQ(設定値読み出し)は実行可能です。

\$ S

- 機能: ATコマンドで設定したパラメータや自動ポーレート検出したパソコンの速度を保存します。
- 書式: AT\$S
- パラメータ: なし
- 入力例: AT\$S
- 補足: 電話帳、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、内線指定番号、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス等はその都度保持されるので、本コマンドは必要ありません。

\$ X

- 機能: 着信転送や選択着信転送の種類を設定します。
- 書式: AT\$X<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1><パラメータ2>
- 0: 着信転送の種類の設定
 - 0 = 1: NTT着信転送
 - 0 = 2: 疑似着信転送(初期値)
 - 0 = 3: 電話番号着信転送(遊遊メール)
 - 1: 選択着信転送の種類の設定
 - 1 = 0: 無条件転送(初期値)
 - 1 = 1: INSなりわけ時転送
 - 1 = 2: 識別着信時転送
- 入力例: AT\$X0 = 1
- 補足: 本コマンドとあわせて、\$Y、\$YM、\$Zコマンドを設定してください。

\$Y

- 機能: アナログポートの着信転送先のアドレスを登録します。
- 書式: AT\$Y<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 着信転送先(0)アドレス
1: 着信転送先(1)アドレス
2: 着信転送先(2)アドレス
<パラメータ2> 転送先アドレス(電話番号)
- 入力例: AT\$Y0=0123456789
- 補足: 本コマンドとあわせて、\$Zコマンドで転送元を設定してください。
- ・相手電話番号は最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・着信転送先の設定はアドレスだけです。サブアドレスは設定できません。

\$YM

- 機能: 電話番号着信転送(遊遊メール)を行う際の、転送先のメールアドレスを登録します。
- 書式: AT\$YM<パラメータ1><=パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 着信転送先(0)メールアドレス
1: 着信転送先(1)メールアドレス
2: 着信転送先(2)メールアドレス
<パラメータ2> 転送先アドレス(半角英数字、記号)
- 入力例: AT\$YM0=abc@def.ghi.co.jp
- 補足: 転送先メールアドレスは最大40文字まで設定できます。

\$ Z

- 機能: アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。
- 書式: AT \$ Z <パラメータ1> <=パラメータ2> </パラメータ3>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 着信転送元(0)アドレス
 1: 着信転送元(1)アドレス
 2: 着信転送元(2)アドレス
 5: トーキあり/なしの設定
- <パラメータ2> 転送元アドレス(電話番号)
 次はパラメータ1が5のときに使用
 0: 転送トーキなし、転送元トーキなし
 1: 転送トーキあり、転送元トーキなし
 2: 転送トーキなし、転送元トーキあり
 3: 転送トーキあり、転送元トーキあり(初期値)
- <パラメータ3> 転送元サブアドレス
- 入力例: AT \$ Z0 = 9876543210
 AT \$ Z5 = 0
- 補足:
 - ・ 本コマンドとあわせて、*Zコマンドで着信番号を設定してください。また、\$Y、\$YMコマンドで転送先を設定してください。
 - ・ 転送元アドレスは最大32桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ 転送元サブアドレスは最大19桁で0～9の数字が使用できます。
 - ・ /以降が省略された場合は転送元サブアドレス指定なしとみなします。
 - ・ /は/Sコマンドで変更できます。

- ・転送トーカーの設定は「NTT着信転送」に設定したときに利用できます。また、電話番号ごとに設定することはできません。

%C

機能: PIAFSによるデータ通信時、データ圧縮をおこなうか否かを設定します。

書式: AT%C <パラメータ1 >

パラメータ: <パラメータ1 > 0: 圧縮なし
 2: V.42bisデータ圧縮あり(初期値)
 ?: 本データ圧縮の設定内容を表示する

入力例: AT%C0

S

機能: Sレジスタポインタを指定します。

書式: ATS<パラメータ1 >

パラメータ: <パラメータ1 > 0 ~ 26: Sレジスタ

[Sレジスタへ](#)

入力例: ATS0

補足: 初期値は0です。

?

機能: 現在のSレジスタポインタの示すレジスタ内容を表示します。
書式: AT?
パラメータ: なし
入力例: AT?
補足: Sコマンドと続けることができます。
例)ATS0 + AT? ATS0?

=

機能: 現在のSレジスタポインタの示すレジスタ内容を変更します。
書式: AT = <パラメータ1 >
パラメータ: <パラメータ1 >設定値
入力例: AT =
補足: Sコマンドと続けることができます。
例)ATS0 + AT = 2 ATS0 = 2

+ + +

機能: データ通信中につながっている回線を切らずにコマンドモードへ戻し、コマンドを入力することができます。
書式: +++
パラメータ: なし
入力例: +++

!H

機能: マイプライベート着信用アドレスの登録情報を表示します。
書式: AT!H
パラメータ: なし
入力例: AT!H
補足: 登録されていない場合、BUFFER EMPTYを表示します。

!SH

機能: 疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用アドレスの登録情報を表示します。
書式: AT!SH
パラメータ: なし
入力例: AT!SH

!SZ

機能: 疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)のアドレスを登録します。
書式: AT!SZ<パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3>
パラメータ: <パラメータ1> 0~29(最大30件登録できます)
 <パラメータ2> 相手電話番号
 <パラメータ3> 相手サブアドレス(最大19桁)
入力例: AT!SZ0=1234567890/123
補足: ・サブアドレスだけが登録されている場合はERRORを返します。
 ・相手電話番号は最大32桁で0~9の数字が使用できます。

!UC

- 機能: 迷惑電話防止用アドレスに登録されている電話番号を削除します。
- 書式: AT!UC = <パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 相手電話番号、P、C、Q P: ヒツウチ C: コウシュウデンワ O: ヒョウジケンガイ)
- 入力例: AT!UC = 1234567890
- 補足:
- ・ 入力されたアドレスが全桁一致した場合にだけ登録は削除されます。
 - ・ 一致しない場合は、ERRORを表示します。

!UH

- 機能: 迷惑電話防止用アドレスの情報を表示します。
- 書式: AT!UH
- パラメータ: なし
- 入力例: AT!UH
- 補足: 登録されていない場合はBUFFER EMPTYを表示します。

!US

- 機能: 迷惑電話防止用アドレスを登録します。
- 書式: AT!US = <パラメータ1>
- パラメータ: <パラメータ1> 相手電話番号、P、C、Q (P: ヒツウチ C: コウシュウデンワ O: ヒョウジケンガイ)
- 入力例: AT!US = 1234567890
- 補足:
- ・ 既に登録されているアドレスを再入力した場合はAlready existを表示しデータは更新しません。
 - ・ 登録件数は最大20件までです。
 - ・ 相手電話番号は最大15桁で0～9の数字が使用できます。

!VH

- 機能: INSボイスワープ設定用電話番号を表示します。
- 書式: AT!VH
- パラメータ: なし
- 入力例: AT!VH
- 補足: 登録されていない場合はBUFFER EMPTYを表示します。

!VZ

- 機能: INSボイスワープ設定用電話番号を登録します。
- 書式: AT!VZ<パラメータ1> = <パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> ボイスワープ番号。0～4、9:
<パラメータ2> 設定電話番号または契約番号(契約番号、全32桁まで)
- 入力例: AT!VZ0:1420
- 補足: 設定電話番号は初期値のデータがあります。

!WH

- 機能: 疑似なりわけの相手の電話番号を表示します。
- 書式: AT!WH
- パラメータ: なし
- 入力例: AT!WH
- 補足: 登録されていない場合はBUFFER EMPTYを表示します。

!WZ

- 機能: 疑似なりわけの相手の電話番号を登録します。
- 書式: AT!WZ<パラメータ1>=<パラメータ2></パラメータ3>
- パラメータ: <パラメータ1> 0~29(最大30件登録できます)
<パラメータ2> 相手電話番号
<パラメータ3> 相手サブアドレス(最大19桁)
- 入力例: AT!WZ0=1234567890/123
- 補足: ・サブアドレスだけが登録されている場合はERRORを表示します。
・相手電話番号は最大32桁で0~9の数字が使用できます。

!X

- 機能: マイプライベート着信の設定をします。
- 書式: AT!X0=<パラメータ>
- パラメータ: <パラメータ1> 0: 使用しない
1: 使用する
- 入力例: AT!X0=1
- 補足: 初期値は0です。

!Z

- 機能: マイプライベート着信する相手電話番号と着信するポートの設定をします。
- 書式: AT!Z <パラメータ1> <=パラメータ2> </パラメータ3> <;パラメータ4>
- パラメータ: <パラメータ1> 0 ~ 29(最大30件まで登録できます)
- <パラメータ2> 相手電話番号、P、C、Q P:ヒツウチ、C:コウシュウデンワ、O:ヒョウジケンガイ)
- <パラメータ3> 相手サブアドレス(最大19桁)
- <パラメータ4> A、B、C:着信ポート番号。
- 入力例: AT!Z0 = 1234567890/123;A, B
- 補足: ・サブアドレスおよび着信ポートだけが登録されている場合はERRORを表示します。
- ・相手電話番号は最大32桁で0 ~ 9の数字が使用できます。

%H

- 機能: 高機能S点ユニット使用時のホームネットワークモードを設定します。
- 書式: AT%H <パラメータ1> <=パラメータ2>
- パラメータ: <パラメータ1> <=パラメータ2>
- 0 : 設定内容表示
- 1 : ホームネットワークモード設定
- 1=0 : スルーモードで使用
- 1=1 : ホームネットワークモードで使用
- 入力例: AT%H1=1
- 補足: 本コマンドで設定を変更した場合は、電源を入れ直してください。

%Z

機能: 高機能S点ユニット使用時、ホームネットワーク用のアドレスの登録と表示を行います。

書式: AT%Z<パラメータ1> <=パラメータ2> </パラメータ3>

パラメータ: <パラメータ1> ? : 設定内容表示
 0~9:(アドレステーブル番号)
 <パラメータ2> アドレス(内線番号) 最大32桁
 <パラメータ3> サブアドレス 最大19桁

入力例: AT%Z1=123456

補足:

- ・i-ナンバーを使用する(*PX1=1)場合、アドレステーブル番号8、9はi-ナンバー用の着信指定番号として固定的に使用されます。登録されている内容は無視されます。i-ナンバーを使用しない(*PX1=0)場合、アドレステーブル8~9に登録されているアドレスで内線呼び出しを行います。アドレスが登録されていない場合はグローバル着信で内線呼び出しを行います。
- ・アドレスとサブアドレス間のセパレータ/は、/Sコマンドで変更できます。

レジスタ番号	内容	範囲	単位	意味	初期値
0	自動応答	0 1 ~ 255	回	自動応答しない 設定値の数だけ「RING」を送出後、自動応答する	1
1	RING送出回数表示	0 ~ 255	回	“RING”を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0 1 ~ 127	ASCII	エスケープ文字なし 設定した文字をエスケープキャラクタとする	43 (+)
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	13(CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10(LF)
5	後退文字	0 ~ 32, 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8(BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信時、設定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS遅延時間 (注1)	0 ~ 100	(注2)	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにする	0
その他	サポートしません				

注意!

- CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときのみ有効です。
- CS遅延時間S26に設定した値とCS遅延時間の関係を示します。
「AUTO」は、設定した速度の24ビット分、他の設定値「10ミリ秒」~
「100ミリ秒」は設定した速度の24ビット分にその設定値を足した
時間になります。

S26値

CS遅延時間

0	AUTO(0ミリ秒)
10	10ミリ秒
20	20ミリ秒
30	30ミリ秒
40	40ミリ秒
50	50ミリ秒
80	80ミリ秒
100	100ミリ秒

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION:V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION:NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL:PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

BUSY

機能: 相手話中のため接続に失敗したときに送じます。
書式: BUSY
出力例: BUSY

OK

機能: コマンド正常終了
次の条件の時に送じます。
(1) コマンドが正常であったとき(A、D、Oコマンド実行時はなし)
(2) エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
(3) オンラインコマンドモード時にATHコマンドが入力され通信が切断されたとき

書式: OK
出力例: OK

CONNECT

機能: 相手と通信状態になったときに送出不します。

書式: CONNECT <パラメータ1>

パラメータ: <パラメータ1> なし: 相手と通信状態になりました。

(ベーシックリザルトコードセットのみ)

1200: 回線速度が1200bpsで接続完了しました。

2400: 回線速度が2400bpsで接続完了しました。

4800: 回線速度が4800bpsで接続完了しました。

9600: 回線速度が9600bpsで接続完了しました。

14400: 回線速度が14400bpsで接続完了しました。

19200: 回線速度が19200bpsで接続完了しました。

28800: 回線速度が28800bpsで接続完了しました。

32000: 回線速度が32000bpsで接続完了しました。

38400: 回線速度が38400bpsで接続完了しました。

57600: 回線速度が57600bpsで接続完了しました。

64000: 回線速度が64000bpsで接続完了しました。

出力例: CONNECT38400

RING

- 機能: 着信があった場合、応答するまで2秒間隔で通知します。
- 書式: RING <パラメータ1> </パラメータ2> <[パラメータ3]>
- パラメータ: <パラメータ1> 発信側のアドレス
<パラメータ2> 発信側のサブアドレス
<パラメータ3> ユーザ・ユーザデータ
- 出力例: RING
- 補足: 発信側のアドレス以降を付加させるにはWコマンドで指定します。

NO CARRIER

- 機能: 通信相手との接続に失敗したときに送出します。
また、通信中なんらかの原因で切断した場合も送出します。
- 書式: NO CARRIER
- パラメータ: なし
- 出力例: NO CARRIER

ERROR

- 機能: 次の条件のときに送出します。
- (1) 不正なコマンドが入力されたとき
 - (2) コマンド入力が最大文字数を越えたとき
 - (3) Dコマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
 - (4) パソコンのER信号がオフのときに発信したとき
 - (5) アナログポートを使用しているときに \$ A、\$ B、\$ C、\$ Dコマンドで設定しようとしたとき
 - (6) コマンドで設定や登録をしようとしているポートが使用中のとき
- 書式: ERROR
- 出力例: ERROR

COMPRESSION:NONE

- 機能: PIAFS通信の圧縮なしで接続したときに送出します。
- 書式: COMPRESSION:NONE
- 出力例: CONNECT 32000 PROTOCOL:PIAFS COMPRESSION:NONE
- 補足: PIAFS通信で接続したときだけ表示します。

PROTOCOL:PIAFS

機能: PIAFS通信で接続したときに送じます。
書式: PROTOCOL:PIAFS
出力例: CONNECT 32000 PROTOCOL:PIAFS COMPRESSION:NONE
補足: PIAFS通信で接続したときだけ表示します。

COMPRESSION:V.42bis

機能: PIAFS通信のV.42bisデータ圧縮で接続したときに送じます。
書式: COMPRESSION:V.42bis
出力例: CONNECT 32000 PROTOCOL:PIAFS COMPRESSION:V.42bis
補足: PIAFS通信で接続したときのみ表示します。